

## ま え が き

本報告書は、社会安全研究財団が3年に1度行うこととしている「犯罪に対する不安感等に関する調査研究」の第3回目の調査結果をまとめたものである。

刑法犯の認知件数は、平成14年の約285万件という戦後最多の数字から、平成19年の約190万件にまで減少した。これは、警察庁が打ち出した施策である平成15年「緊急治安対策プログラム」・平成18年「治安再生に向けた7つの重点」を全国の警察が着実に実行してきたこと、また、国民の間に治安に対する不安と関心が高まり、安全で安心できる社会作りのためにかつてない数の防犯ボランティア団体（約3万5千団体）が結成され、その活動が相当の成果を生んだ結果であると考えられる。

とはいえ、相も変らぬ振り込め詐欺の横行、凶悪な銃器使用事件、暴力団関連事件、インターネット犯罪の多発など我が国の治安は、かつての世界一安全な国と言われたほどの安心感を国民に与えるには至っていない。

今日では、犯罪の認知件数の減少と検挙率の増加がただちに国民の不安感の減少にはつながらない。ここに本調査の意義がある。

国民の犯罪に対する不安感を広範な角度から詳細に調査・分析した本報告書が、実際の犯罪リスクと犯罪に対する不安感をバランスの取れたものにするために、社会の安全と安心の確保に関心と責任を有する機関・団体や人々が何を成すべきかを考える一助となれば幸いである。

平成20年3月

財団法人 社会安全研究財団

専務理事 上田正文

## 目 次

まえがき

第Ⅰ部 調査の概要	1
第1章 調査の目的と調査実施の概要	3
1. 調査の目的／2. 調査項目／3. 調査方法／4. 標本構成／5. 調査研究の機関	
第2章 調査結果の概要	8
1. 調査対象者／2. 本報告書の構成／3. 調査結果の全体的概要	
第Ⅱ部 調査の結果	17
第1章 犯罪被害の実態	19
1. 犯罪被害の経験／2. 犯罪被害の警察への届出／3. まとめ	
第2章 犯罪被害に対する不安感	26
1. 日常感じている不安感／2. 家族が被害にあう不安感／3. 自身および家族の犯罪被害に対する不安感—罪種別／4. 自身および家族が犯罪被害にあう可能性（リスク知覚）—罪種別／5. 犯罪被害への不安感が生じる場所／6. 夜間、地域内一人歩きに対する不安感／7. 夜間、家族の地域内一人歩きに対する不安感／8. まとめ	
第3章 治安と防犯対策	40
1. 治安状態／2. 地域の防犯活動の認知／3. 犯罪の被害にあわないための個人対策／4. 犯罪の被害にあわないための警察への要望／5. 地域の安全を守るための行政への要望／6. 地域住民の自主的防犯活動／7. 各防犯活動の重要性／8. 防犯カメラ設置に対しての賛否／9. 性犯罪前歴者の情報公開に対しての賛否／10. まとめ	
第4章 少年非行	60
1. 少年非行に対する認識の量的動向／2. 少年非行に対する認識の質的動向／3. 警察の少年非行・犯罪に対する取り締まり強化に関する意見／4. 少年の喫煙への注意／5. まとめ	
第5章 地域	73
1. 地域居住／2. 地域互助／3. 地域住民の認知／4. 地域参加／5. 地域防犯活動／6. 地域の解体状況の認識／7. まとめ	

第Ⅲ部 調査結果の分析	97
第1章 犯罪被害不安とリスク知覚	99
1. 被害不安を感じる頻度／2. 罪種別の被害不安とリスク知覚／3. 得点化による分析／4. まとめ	
第2章 防犯対策	113
1. 犯罪被害経験と防犯対策の関係／2. 犯罪被害不安と防犯対策の関係／3. 犯罪被害リスク知覚と防犯対策の関係／4. 地域住民による自主的な防犯活動への参加／5. まとめ	
第3章 不安感・リスク知覚・地域状況などの因果関係の分析	152
1. 分析計画／2. 犯罪被害経験の影響に関する検討／3. 不安感・リスク知覚・地域状況の認知の因子分析／4. 地域や個人の属性、地域状況、リスク知覚、不安感を含む因果モデルの構成／5. まとめ	
第4章 家族生活・近隣関係と犯罪被害・犯罪不安	178
1. 婚姻状況・同居家族と、犯罪被害・犯罪不安／2. 近隣関係と犯罪不安／3. まとめ	
第Ⅳ部 資料	201
資料1. 調査票／資料2. 集計表／資料3. 自由回答	